

「豊かに学び 未来を拓く力」をはぐくむために

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」（文部科学省R6.9.18）において、「子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身に付けることの重要性」が述べられています。中丹の教育の一層の充実に向け、授業づくりで特に大切にしたいポイントを3点示します。



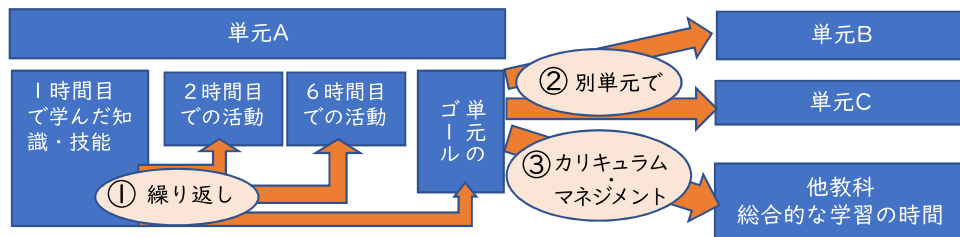
① 主体的な学びとなる課題



「学ぶ意義」を感じさせることが重要です。児童生徒の興味・関心に基づき、身近な生活やそこにある課題を題材に課題を設定しましょう。

知識・技能の習得や課題の解決にかかわり、多様な学習方法や解決方法等を提示し、児童生徒に取捨選択させる機会を確保しましょう。

② 学習指導要領が目指す資質・能力の育成



学習指導要領が目指す資質・能力を児童生徒に身に付けさせるためには、その資質・能力を活用する場を繰り返し設定することを大切にしましょう。

例えば、1つの単元内で新しく身に付けた資質・能力を①繰り返し使う場面、②別の単元で、以前に学んだ資質・能力を新たな課題の解決に向けて使う場面の設定です。

また、③他教科とのカリキュラム・マネジメントにおいて、課題の解決に向け、身に付けた様々な資質・能力をはぐくむための場面の設定も考えましょう。

③ 学力実態や学力層に応じた指導



評価規準の共有



学習課題の充実

児童生徒が自身の学びを調整するためには、学びを調整させる手立てが重要です。そのため、単元等の評価規準を児童生徒と共有することを大切にしましょう。

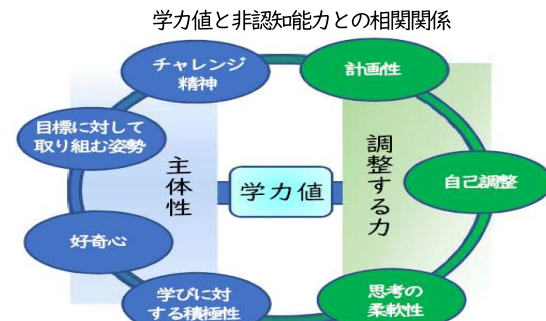
また、多様な児童生徒一人一人の力を伸ばすために、学力層に応じた学習課題の充実を図りましょう。

授業で認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ

中丹管内においては、学力値と非認知能力との間に右図のような相関関係があります。

中丹教育局では、学力向上に向けて、様々な非認知能力の中から「主体性」と「学びを調整する力」の2つに着目し、授業を通して、これらを教科で身に付けるべき資質・能力と一体的にはぐくむことが重要だと考えています。

そのためには、どのような授業づくりが必要になるのでしょうか？



「令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の結果分析をもとに中丹教育局が作成

非認知能力の育成に向けた研究実践例

ギミックシート		授業者	教科	単元	時
日時	月	日	時	分	秒
本時の内容	単元名 (活動名)				
① 本時のねらい	めあて				
② 学習活動	【記述内容】 授業者がはぐくみたい非認知能力にかかわって ①どの非認知能力を？ ②どんな活動を通して？ ③ねらいとする子どもの姿は？				
③ イメージ (ねらいとする子どもの姿)					
本時のギミックポイント	環境 教材 働きかけ				
授業観察を通して気づいたことや感じたこと	【協議】 ③のイメージと参観の様子をもとに、①の非認知能力の育成に、②の学習活動が効果的であったのかを協議します。				

第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業 舞鶴市立和田中学校ブロックの実践から

和田中学校区では大切にしたい非認知能力「12の力」を設定し、教科と総合的な学習の時間を往還しながら育成を進めています。

本年度から、授業研究会等において「12の力」を明記し、参観者が育成する場面に注目して授業を見るためのシート「ギミックシート」を作成し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりを進めています。

第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業最終報告会では、学びのパスポートの結果分析から、大きく学力ステップが上がった児童生徒は非認知能力を大きく伸ばしているという報告がありました。

令和7年度は「豊かに学び 未来を拓く中丹の教育」の実践として、中丹プロジェクト21の事業を通して、児童生徒の「主体性や学びを調整する力をはぐくむ授業づくり」にかかわる研究を進め、管内に広く発信していきます。

各校が目指す子ども像の実現に向け、児童生徒の実態を踏まえて、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業づくりの推進をお願いします。